NEWS LETTER



三千里

Vol. 29 2022年4月号

^{発行} NPO法人 三千里鐵道 ^{〒441-0109} 愛知県豊橋市下五井町青木31 TEL.0532-53-6999 FAX.0532-54-4931

新しい連携を

2000年6月15日の南北共同宣言から22年の歳月が経とうとしている。

このNPO法人が多くの人々の支えによって 22年間も継続できたことに感謝を申し上げると ともに、当初目的の成果を報告できる状況であ るかについてはいまだに確たる自信はありません。

ご承知のように、2年前からのコロナによるパ ンデミックやロシアのウクライナ侵攻により世 界は揺れ続けている。ヴェトナム戦争(1955~ 75年)の終結後、湾岸戦争(1991年)、21世紀に入 りアフガン戦争(2001年)、イラク戦争(2003年)、 リビア内戦 (2011年)、2017年からはシリア空爆 が継続している。これらの戦争はアメリカと NATOが主役である。また、イギリスの植民地 であったパレチスナは数次にわたる中東戦争を 経てもその混迷は深まるばかりである。祖国で ある朝鮮半島も1948年からの世界唯一の分断国 家として70年以上の悲劇を積み上げている。大 切なことは複眼的な視点で現実をしなければな らない。戦争はいつの時代にも弱者が犠牲にな り、戦いが終焉してもその傷跡は行く行く世代 にも継続する。また、戦争によって利益を得る 集団、組織がある。情報が無責任にばらまかれ る時代、それを判断できるものは歴史的な視点 であろう。



代表都相太

NPO三千里鐡道は、元韓国統一部長官をはじめとして統一問題に深く関わった人士の講演会などを多く開催してきたが、今年度は在日の各界各層で、そして地域で汗を流しながら活躍している方々と共に語り合い「協働」の理念のもとに顔の見える関係を築ければと考えています。「協働」は個人や組織の多様性を尊重し、それぞれが自立・自律しながら緩やかな連携をそして支えあいを、できることから始められないかと考えています。

皆さんと気楽で楽しい議論ができることを願って。

お知らせ

三千里鐵道のホームページがリニューアルされました。韓国語サイトもあります。

訃報 NPO三千里鐡道の副理事長を担っていただいた鄭載宇氏がこの3月11日に93歳で逝去されました。謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。

韓国大統領選挙の結果分析

三千里鉄道顧問 康宗憲

3月9日、第20代韓国大統領選挙の投開票が実施され、野党「国民の力」尹錫悦候補が当選した。事前投票を含めた投票率は77.1%で、約3376万人の有権者が投票したことになる。尹氏の得票は1639万4815票(得票率48.56%)。一方、与党「共に民主党(以下、民主党)」の李在明候補は1614万7738票(47.83%)を獲得した。約25万票(0.73%)差の大接戦だった。

01 投票傾向に見る特徴

出口調査によると、投票傾向にはいくつかの特徴がある。先ず、世代別に見た両候補の得票率差である。20代以下で尹氏と李氏は45.5%: 47.8%、30代では48.1%: 46.3%の接戦だった。しかし、2年前の国会議員総選挙では、20代が56.4%: 32.0%、30代は61.1%: 29.7%と、与党が野党を圧倒していた。これまでは民主党を支持してきた20・30代が今回、離反もしくは浮動票に転じたわけだ。また、40代は民主党の最大票田であり、60.5%が李氏に投票した。逆に60代以上では67.5%が尹氏に投票している。ただ、投票率をみると、40代の70.4%に対し60代以上は84.4%で、保守性向の高齢層は今回も最高の投票率だった。前回の大統領選挙では74.9%の投票率だった40代が、今回は全体(77.1%)よりもかなり低い投票率にとどまっている。

次に、地域別の投票形態を見よう。伝統的に、嶺南 (慶尚道)地域は保守勢力の土壌で、湖南(全羅道)地域は民主勢力の支持基盤と言われてきた。今回の大統領選挙で尹氏は、嶺南の全地域で55~75%を得票し、約269万票差で李氏を上回った。一方、李氏も湖南では80%台の得票を上げ、尹氏に約249万票の差をつけている。地域対立の様相は今回も顕著だったが、尹氏が湖南地域で12.8%を獲得し、2012年の朴槿恵候補(10.5%)を上回った点が注目される。

地域別・世代別の対照的な投票傾向から、結果的にはバランスが取れていると思われるかもしれな

い。だが、地域・世代別の有権者分布を見ると、民主 勢力にとって韓国の選挙が、いかに不利な条件での 戦いであるかを理解できるだろう。

嶺南地域の有権者が約1100万人であるのに対し、湖南地域は半分以下の430万人に過ぎない。民主性向の済州道56万人(今回の得票率は李氏52・6%:尹氏42.7%)を含めても500万人に満たないのだ。さらに世代別でみると、40代の有権者が約815万人なのに対し、60代以上は約1312万人にも達する。前回の大統領選挙と比較して、40代は58万人が減少し60代以上は278万人が増加している。この増減傾向は今後も続くだろう。つまり、地域と世代の有権者分布において、保守勢力は常に有利な選挙戦となるのだ。まるで極端に「傾いた運動場」でサッカー競技をするように、低地の民主勢力は高地の保守勢力を相手に苦戦し、後半戦になってもコート・チェンジは行われない。民主勢力が勝利するには、有権者の熱い支持に依拠するしかない。

02 民主党の敗因

本来なら大統領選挙は、現政権への評価ではなく、 次期政権を担う指導者の資質や政策ビジョンを検証 する場である。ところが今回の大統領選挙を支配し たのは、現政権の失政に対する審判論だった。与党 政権の継続を拒否し、野党への政権交代を求める世 論が過半数を占める状況は、直前まで変わらなかっ た。単純に考えれば、与党候補はかなりの高い支持 を受ける人士でない限り勝利は困難であり、野党は よっぽどの無能者でなければ当選を見込める状況 だったといえよう。尹候補には家族をめぐる不正疑 惑や自身の失言も目立ったが、根強い政権交代論は そのすべてを容認したのだ。前述の「傾いた運動場」 に加え、李候補にとっては極めて厳しい選挙戦だっ た。では、文在寅大統領と民主党の政権運営に、一体 どのような過誤があって、これ程の民心離反を招い たのだろうか。

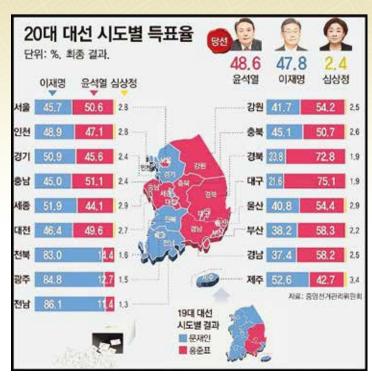
先ずは「政権の傲慢」である。現政権は朴槿 恵政権を弾劾するローソク・デモの熱気を受 けて登場した。執権当初、民主党指導部は「4 期20年」は安泰だと豪語した。彼らはローソ ク・デモを主導したわけでもなく、それに便 乗して「1期5年」の政権を委譲された受恵者に 過ぎなかった。しかし、国民から絶対的な支 持を得ていると錯覚した民主党政権は、あら ゆる策を弄しながら権力の膨張を図り既得権 勢力と化していった。いくつかの例を挙げよ う。

2020年の総選挙は、二大政党以外の小政党 にも国会進出の道を開くために、選挙法の改 正(比例代表枠の拡大)が課題となっていた。 中央選挙管理委員会の提案は、総計300議席 を、地域区200・比例代表区100に配分するも のだった。ところが、小選挙区制で過半数議 席を獲得したい与党は比例代表枠の拡大を望 まず、現行通りの47議席にとどめることで調 整した。しかも、二大政党には比例代表議席 の配分に制約が課せられていたが、最大野党 は名称だけを変えた衛星政党を別途に設立 し、その制約を回避する道を探った。見え透 いた策であったが、結局は与党も衛星政党を 創設して保守勢力に追随した。市民の理解が 得られるだろうとの傲慢が、民主勢力の道徳 的な権威を失墜させることになった。

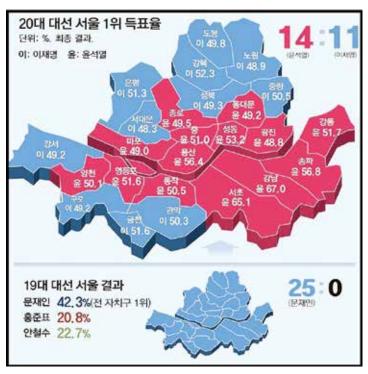
あらゆる小細工を弄した結果、与党は衛星 政党を合わせて180議席を獲得したが、与党議 員が絶対多数の国会でこれといった改革法案 も推進できず、逆に与党が自治体長を務める ソウルとプサンで市長のセクハラ疑惑が浮上 した。その前年には忠清南道知事も秘書への 性的暴行によって有罪判決を受けており、民 主党は猛省すべき状況だったが、指導部は弁 明に終始し被害者への真摯な謝罪もしなかっ た。市民の糾弾を受けるなか、プサン市長は

有罪判決を宣告され、ソウル市長は捜査前に自殺する。

その再選挙が昨年4月に実施された。民主党の党



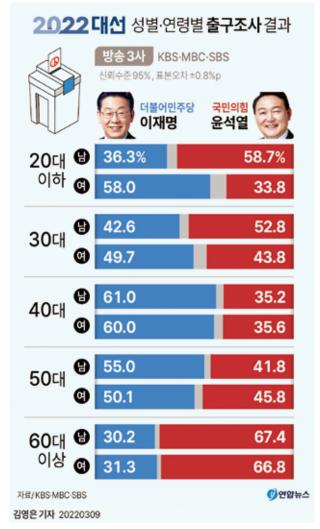
20代大統領選挙の結果。下は19代大統領選挙の結果。 ソウル、忠清道、江原道において逆転されていることが分かります。



ソウルでは、江南地域だけでなく漢江北部においても逆転を許して います。

規約は「自党の責任に伴う再選挙には候補者を推薦 しない」と規定されていた。文在寅氏が党代表の在 職時に採択された規約だったが、これも躊躇なく修 正した。「憲法も必要に応じて改正する。党規約も不変ではない」というのが文大統領の釈明だった。 推薦候補者を立てたソウルとプサンの再選挙で、民主党は惨敗する。ソウル市では、25の行政区すべてで野党に敗北した。事前の世論調査でも与党に不利な数値だったが、大統領府と民主党の指導部は直前まで勝利を予測していたという。その度し難い傲慢さは、民心とはあまりにも乖離したものだった。この時点で、政権交代を求める世論は大勢になったと言えるだろう。

次に「政権の無能」を指摘したい。不動産対策の失敗は与党と文大統領も自認するところだ。28回にわたって打ち出した諸政策も、高騰する住宅価格に歯止めをかけることができなかった。とりわけ「民間



何より20代における男女差に注目です。李俊錫代表を始め とした国民の力党の"ミソジニー"が男女間葛藤を引き起こ した結果です。 賃貸住宅に関する特別法」の改正に際し、多住宅保有者に有利な税制を導入(総合不動産税の緩和、多住宅者への譲渡税強化措置の延期)したことは、庶民の強い反感を招くことになった。

法務長官と検察総長の人事をめぐる失政も、政権 の無能を象徴する事態だった。民政担当首席秘書官 の曺国氏を法務長官に任命し、朴槿恵政権の不正調 査に功績のあった尹錫悦氏を検察総長に抜擢して司 法改革を断行するのが文在寅政権の構想だった。と ころが、長官任命に際する検証段階で、尹検察総長は 曺国氏一家の様々な不正疑惑を持ち出し任命に反対 した。検察の反対を押し切り文大統領は任命を強行 したが、反対世論は急速に広がり韓国社会は両分さ れた。政権は事態を収拾する有効策を打ち出せず、 任命からわずか35日後の2019年10月14日、曺氏は辞 任した。尹検察総長も政権との深刻な葛藤にさらさ れる。次期法務長官によって職務停止処分を受ける も、尹氏は「権力の弾圧に立ち向かう正義派」とのイ メージを獲得した。辞表を提出して政治活動を開始 した彼は、野党の大統領候補になって当選を果たす という政治劇の主人公となったわけだ。

文大統領は曺氏の任命に固執すべきではなかっただろう。また、特捜部出身の尹氏を地検長から一挙に検察総長へと昇格させたことも、不適切な人選だった。韓国政治では「人事が万事」と言われる。政権内部で、人事の検証システムが十分に機能していたとは思えない。

文在寅政権の「司法改革」という壮大な構想は、いつの間にか「検察改革」に縮小され、最終的には「検察総長との対決」に歪曲された。事態の悪化を防ぎ政局をコントロールする能力に欠けた政権が、結局は「有能な猟犬」を「最大の政敵」に育て上げて野に放ち、次期権力をその手に譲渡するという失態を招いたのだ。

03 韓国政治の課題と今後の展望

長々と民主党の敗因を述べたが、要約すれば極めて簡単である。「負けに不思議の負けはない」のだ。 傲慢と無能に集約される民主党は、負けるべくして 負けた。民主党が再起を期すなら、決して他党に責 任を転嫁すべきではない。第3位となった正義党の 沈候補が80万3358票(得票率2.37%)を獲得してい る。直前に第二野党の安候補が尹氏との一本化を宣 言して辞退したが、「沈候補も与党との一本化を選択 していたら、勝敗は逆転していた」との安易な発想は 捨てるべきだろう。正義党は常に5%前後の支持率 を集めていた政党だ。その候補が約半分の得票に終 わったことは、多くの同党支持者が、最悪の事態(尹 氏の当選)を避けるために、苦渋の決断で李候補に投 票したことを意味するからだ。

保守政党への政権交代は冷戦勢力のカムバックに他ならない。尹氏も遊説では文在寅政権の南北首脳合意を否定的に評価し、韓米日同盟の強化を主張するなど自身が冷戦時代の指導者に相応しいことを隠さなかった。また、尹錫悦政権の誕生は「検察共和国」の成立とも言えるだろう。民主・進歩勢力には息苦しい「反動の時代」となるかもしれない。しかし、52%近い有権者が尹政権の登場を拒否した事実は重

い。しかも、国会で与党は少数政党だ。尹氏と党指導部が当選直後から「野党との政治協力」を掲げているのは、そうした状況を無視できないからだ。

保守政党は今回の選挙に勝利したが、内部の自己 刷新による躍進ではなく、対立政党からの輸血(尹氏 の候補擁立)という苦肉の策によって蘇生した。お そらく同党の水準は、弾劾された朴槿恵政権当時の ままだろう。ただ、彼らに学習能力があるとすれば、 弾劾の教訓を生かした政権の運営を図るはずだ。

野党となった民主党も敗因を謙虚に分析し真摯に 再生を目指さない限り、失った市民の信頼を回復す るのは困難であろう。国会での多数議席を活用し、 課題である政治改革を果敢に推進すべきなのだ。二 大政党政治の弊害が顕著となった韓国政治におい て、多様な政治勢力の議会進出を可能とする選挙制 度の改革は、差し迫った課題である。民主党がその 先頭に立つとき、既得権政党だとの批判ではなく、民 主勢力としての再評価を得ることになるだろう。

출구조사로 보는 세대별 지지율 2022년 대선 2012년 대선 인재명 윤석열 2002년 대선 문재인 박근혜 20대 이하 47.8 45.5 노무현 이회창 20대 이하 65.8 33.7 46.3 48.1 30EH 59.0 66.5 60.5 ■20대 이하 34.9 30CH 33.1 40CH 35.4 59.3 55.6 52.4 30대 34.2 40CH 44.1 50대 43.9 40CH 48.1 47.9 50대 37.4 62.5 60대 이상 30.8 67.1 50CH 40.1 57.9 60대 이상 27.5 72.3 자료: 방송3사 출구조사(%) 34.9 63.5 60대 이상 자료: 방송3사 출구조사(%) 민주당 계열 ■ 국민의힘 계열 자료 : MBC 출구조사(%)

出口調査で見る世代別支持率。

2002年選挙(盧武鉉当選)2012年選挙(朴槿恵当選)との比較推移。歳を取るに従い保守化するだけでなく、20代、30代において接戦となっているのは、国民の力党が男女間葛藤を引き起こし若い男性が脱落したから…

事務局会議の充実、愉しさ

磯貝治良

三千里ニュースレターが情報、企画、論説の一方通 行になっているようなのでちょっとお誘いを。

「会議は踊る」というのは古い俗言だが、ぼくは会社や労働組合などの組織は勿論、文学関係であれ運動関係であれ「会議」なるものが好きではない。ところが、三千里鐵道の「事務局会議」はその名に反して充実感いっぱいで愉しく、知らせが入ると、かつての遠足がそうであったようにその日を待ちのぞむ。

たとえば3月13日の会議。韓基徳事務局長ご用達のコーヒーを飲みながら、康宗憲顧問から大統領選、李在明候補超惜敗の原因について聞く。日本のメディアの報道は論外として韓国メディアのそれともふた味ほど違って、革新圏内部の仔細にも視点が向けられる。真実は細部に宿る。アクチュアリティと思索の明瞭さが定評の康宗憲さんの講演を聴いたときのように、30分に充たない話なのにぼくのアタマに「質問事項」がゆたかに浮かぶ。話のダイジェストは(たぶんオフレコは省いて)本誌面に載る。

「事務局会議」に問題あり、とすれば、なぜか男性 ばかりということ。「運動内家父長制」とは言わない が、女性の活躍世界ランキングの劣位をキープする 日本国に比べても比較さえならない。その事務局会 議に3月13日、女性が加わった。三千里鐵道22年の歴 史で(ぼくの記憶によれば)初めてのことである。都 相太理事長の兄相夏氏の娘さん(あえて本人承諾な しに名を記す)可依子さんである。都相太さん曰く 「よそ者」と「若者」が社会を変える。今の世の趨勢を 見ていると、そこに「女性」を加えるべきかもしれない。「若者」には白康喜事務局次長が該当する。

「事務局会議」の魅力はなんといっても顔ぶれの 多彩なキャラクターと持ち味。それは前号に素描し た。ここでは、会議後の飲食について特記する。こち らが会議本番かと見まがうほどに盛り上がる。特異 な才能を持つ事務局長探索の店が毎度、好評。3月13 日は名古屋の胃袋を仕切る柳橋市場の貝料理専門の 店。貝づくしは絶品であった。

以上のごとき会議から、朝鮮半島の南北和解・協力・統一への参画をめざして気宇壮大な企画から日常の取り組みまでの活動が発信されるのは、一種のふしぎである。

出入り自在、義務も拘束力もなし(とぼくには見える)会議です。

老若男女を問わず一度、顔を出してみてはいかがですか、ぜひ。

[追記] 事務局会議の意向では、この稿は在日朝鮮人作家を読む会と〈在日〉文学論を通してみる在日社会の意識と価値観の変容について書くように、とのことでしたが、45年間の変遷をこの短文で追うのは人が歩いて海を渡るようなものなので、拙著を挙げて垣間見ていただくことにする。『始源の光―在日朝鮮人文学論』(1977年 創樹社)、『戦後日本文学のなかの朝鮮韓国』(1992年 大和書房)、『〈在日〉文学論』(2004年 新幹社)、『〈在日〉文学の変容と継承』(2015年 同前)。

16歳

この四月から、私の娘(三姉妹の一番上)が高校生になる、つまり16歳になると。この「娘が16歳になる」というフレーズから、私の祖父のことを思い出す。

私の祖父は1919年生まれ。1936年に朝鮮半島・全 羅北道から日本へ渡ってきたと。当時16~17歳だっ た計算になる。このころ既に子が産まれており、仕 事を求めて日本へ来たのだろうと。下関で古物商を 営んだり、宮崎の飛行場で働いたり、と、まだらな情 報は獲得できたが、時系列など詳細はよく知らない。

白 康 喜

1940年代に入ると朝鮮半島にいる実母と妹、妻と子も日本に渡り、下の子も産まれ、戦禍も激しくなり、と、せわしなく生活していたそうだ。1945年8月の解放と同時に妻たちは朝鮮半島に戻ったそうだが、自分一人だけ日本に残って「出稼ぎ(というか居残り稼ぎ)」をしていたらしい。その後、朝鮮半島に帰った妻や子とは別れ(理由は知らない)、満州から引き揚げてきた日本人女性と再婚をし、1947年に生まれたのが私の父だ。どうでもよいが、この祖父母の出会

いについては、私は祖母からこう聞かされている。

「引揚げ船から降りる時に乗車券を失くしてオロオロしていたら、『これ、良かったら…』と、一人の男性が乗車券を渡してきた。その男性は自分でお金を払って船を降りていってね。続くように私も船から降りて、人ごみをかき分けてようやくさっきのその男性を見つけて『せめてお名前だけでも。』と声をかけたの。それがお前のおじいさん。それが全ての不幸の始まり(笑)」と。何度となく聞かされた。その祖父母も2005年、2008年に亡くなっているので、もうこんな話を聞くことはない。

いわゆるオールドカマーの「在日」といえば、こういったエピソードは山のようにあると思うが、そんな話に触れることができるのも私たちの世代までではないだろうか。いや、私だって意識していたから

辛うじて聞くことができたものの、民族や「在日」の 歴史に関心が無ければ、聞き落していたかもしれない。

祖父が生まれてから100年以上が経った今、「在日」の実態は大きく変化しているようだ。青年団体で活動していたとき、ある後輩からこう言われた。「4世5世と進むと、在日同胞青年も自分自身に朝鮮半島からのルーツがあるかどうかも分かんないから、そんな子たちに『在日同胞のみなさん!』と声かけても振り向いてくれない。『あれって誰の事?』と。」

これまでの定義では「在日」というものを語り切れなくなってきている事実。この事実とどう向き合い、どう関わり、どう整えていくべきなのか、16歳になる娘から強く問われているような気がする。

21世紀の平和を願う

「3月13日、ハングルの森で三千里鐡道の会合があるからオブザーバーとして参加してみなさい。」と声をかけてくれたのは三千里鐡道 都相太理事長でした。理事長は私の勤務先の取締役会長であり叔父です。

三千里鐡道の理念は【朝鮮半島の統一と平和・アジアの平和を構築する】というものです。なんだか大きな夢みたいなお話しのようですが、私には子供の頃からとても身近に、肌身に感じることが起きていました。

外祖父母は植民地時代、祖国での生活が苦しかったため渡日し、新潟で母を含む5人の子を産み育て、その後瀬戸市に移り住みました。金日成国家主席時「これから北と南が一つになって良くなるから!」と、祖父は万景峰号で北側へ渡りました。その数年後、今度は祖母と叔父3人が帰国。母の姉と、すでに父と結婚していた母は日本に残りました。瀬戸で一緒に

都 加依子

暮らしていた祖母の妹は祖母に「(朝鮮に) 行かないで!」と泣いてすがったそうですが、その後二人は二度と会う事はできませんでした。

母は北側にいる家族からの手紙を読む度に涙し、 家族への物資を何度も何度も荷造りする姿を今でも 覚えています。そして私達は誰も北側へ渡った祖父 母の死に目にあうことはできませんでした。分断の 悲劇は祖国のみならず、身近にあるのです。

今、ロシアのウクライナ侵攻で世界は日々戦々 恐々としています。この21世紀にもなって、戦争で 解決できることなんて一つもない事がどうしてわ からないのでしょう。そこには被害を受けた国民と その家族の悲しみの姿しかなく、その責任は一体誰 がとってくれるというのでしょう。戦争を経験した ことこそありませんが、どの国の国民も安心して平 和に暮らせる日々でありますようにと願うばかりで す。

「在日の今日の問題、未来への課題」討論集会に お越しください。



NPO法人三千里鐵道では、2000年の6.15共同宣言を記念して毎年集会を開催してまいりましたが、今年は『在日の今日の問題、未来への課題』と題した討論集会を企画しました。(別紙参照)

在日同胞社会は、多様化し、分散し、崩壊の危機にあることは、在日同胞社会に関心のある人みんなの共通認識ではないでしょうか。一方結婚移民以外にも事業目的での移住、留学生などのニューカマーが定着し、在日同胞社会と交わりあう機会も増えています。

一方、韓国、朝鮮と日本との国家関係は戦後最悪と 形容されて久しいですが、K-POP、K-ドラマはます ます日本でファンを増やしています。また韓国経済 の躍進と日本経済の停滞は、両国の生活水準の逆転 現象まで引き起こしているのが実情です。 この集会では、在日同胞社会の今日の問題を共有 し、未来への課題と展望を語り合いたいと思います。 平たい場で平たい議論ができればと思います。

議論の先導として五人の方に発題していただくことにしました。

都相太 (NPO法人三千里鐡道理事長)、金順愛 (ケアプランモーメント代表)金正泰(前コリア国際学園校長)、朴英二(映画監督)、白アラリ 24歳女性(会社員)の五人です。司会は、白康喜事務次長が務めます。 ぜひ多くの方がご参加され、日頃思っていることをお話しいただければと思います。

日時 ■ 6月18日(土) 午後2時~午後5時 場所 ■ 安保ホール 601号室 名古屋市中村区名駅3丁目26-19



2022平和統一記念統一マジ紀行 参加者募集

三千里鐵道と友好関係にある統一マジが主催する「2022平和統一記念統一マジ紀行」が下記の日程で開催されます。全日程、李時雨写真作家が同行し案内しますし、宿泊地において講演会も開催されます。 (丁世鉉元統一部長官、李時雨写真作家、李承煥元平統事務処長)

三千里鐵道は後援団体として在日同胞参加者の募集、及び旅費支援(日韓往復航空券支給)を行います。参加ご希望の方はご連絡ください。(090-3559-8874, gideok2010@sanzenri.gr.jp)

日程 ■ 2022年8月12日金 東海岸 高城統一展望台 ~15日月 江華島(3泊4日) 募集 ■ 在日同胞青年学生(5名以内) ※通訳はありません。

■現地参加費 3万円以内(未定)※往復航空券は三千里鐡道が支援、前・後泊費用は自己負担。